

貴重で推奨できる本を読みました。NPO法人ふくしま再生の会理事長の田尾陽一氏がまとめられた「飯館村からの挑戦」（自然との共生をめざして）です。これは国際的にも、ユニークな仕方のできた本だと感じます。飯館村の村民を主とし、世界の多くの老若男女が関与してできたものだからです。——もう直ぐ10年になる、東北大地震以前に福島県飯館村を認識していた人の数は国内でも限られていたと思いますが、地震に伴う福島第一原発事故がもたらした放射能汚染のダメージを、距離的には比較的離れていたにもかかわらず、地理及び気象的要因により極めて深刻に受けたのがこの村で、世界の注目が集まったとされます。——この本では、飯館村の汚染状況の計測から始まり、汚染の危険に直面しながら除染を中心とする難渋する諸々の作業に取り組んだ人々、被害当事者の痛み、破壊された生活と有形無形の文化、村を訪れて多くを学んでいった人々、道半ばの復興過程などが、順をおって明解に説明されています。もちろん、人の温かさやふつと可笑しさを感じさせ、また涙させる場面もある内容です。——本を貴重と評価する理由は、著者が単なる記録者や傍観者ではなく、多くの仲間とともに、村民と手を携えて再興過程の当事者の一人となり、それを生きた現実があり、正確と推量するに足る難事業の記録に裏付けられ、それらがグローバル化時代にふさわしく世界的規模の多様性を帯びた人的ネットワークに開示されているからです。——なお、推奨できるとしたのは、この本が「人と自然の関係はこれで良いのか」と内外人全てに根源的な問いかけをし、学び、考える機会と材料を提示しているからです。そうしたスタンスの書物なので、政治家や行政を司る人達には耳の痛いことも書いてありますが、是非読んで欲しと願いますし、教育の現場でも活用していただきたいと思えます。——加えて4歳の時に疎開先の広島で被爆してから差別・いじめを恐れて、その事実を語りづらかった田尾氏が飯館村民に接してから自由に語れるようになった癒しの記録でもあり、大切な証しとして学びました。